

いうことになれば、災害対応も万全とは言えなくなるでしょう。

119は鳴りっぱなしで、なかなか回線もつながらず、もしつながったとしても「消防署と消防団は全員出払っています。あなたの判断で安全なところに非難してください。」ということになる可能性もなくはないのです。

大切な近所との連携と協力

ところが、淡路島では多くの方が助かりました。近所の人や消防団の皆さんが、誰が、どこに寝ているかまで知っていましたので、住民の皆さんが協力をして助け出しました。そこで、皆さんが災害や大震災で助かるためには、まず、自分で防災や災害対策の準備

をしてください。家族でよく話し合い、寝室の耐震強度も調べ、家具が倒れないように防止策をしてください。そして、近くの消防団や地元区の自主防災組織に協力をして、各種の想定訓練に参加することが大切なのです。安心して毎日を送るために、市民みんなで防災と安全意識を高めるようご協力をお願いいたします。

今日は、お忙しいところ、どうもありがとうございました。

国東市では、総務課防災交通係・消防本部・消防団が、各地域などで行う防災訓練や防災研修など全面的に支援をしていますので、お気軽にご相談ください。

防災に果たす、山林の大切な役割

国東市の森林面積は、約19、540ヘクタールです。市の面積の実に61・6%は森林ということになります。森林内は樹根によって土壌が保持されるとともに、落葉、落枝やかん木、草によって地表が覆われているため、降雨などによる土壌の侵食や流出が抑えられています。森林と裸地を比較した場合、土砂が流出する量は、森林では裸地の150分の1という報告があります。

ところが、国東市の山間地域でも、高齢化、過疎化が一段とすすみ、加えて木材価格の低迷や生活様式の変化に伴い放置されたり荒廃した山林が増加しています。

木材を伐採した跡地をそのままにしておくと、前記したように木材の切り出し用の作業路が大雨で水路となり、土石が流出し、それが道路の側溝をふさぎ、林道や市道が冠水するというケースが多く見受けられます。

山林を守ることとは、災害を防ぐということにもつながるわけです。

個人所有の山林でも森を伐採する場合は、市役所林業水産課への届出が必要となっています。そして、そ

の際には造林届も提出していただくこととなります。助成制度もありますので、詳しくはお問い合わせください。国東市では、県や森林組合などの関係機関と連携を図りながら、国東市の森林が健全に保全されるよう努めています。

担当課 林業水産課 ☎0978-5198 (内線257、259) ⑦



▲昨年8月に行われた「大分県総合防災訓練」の様子



▲人工林の伐採跡地では、山の斜面がすべっている(国見町)



▲昨年の大雨で、地すべりを起こした県道山香国見線(国見町地蔵峠付近)